

第3回 公開研究会 早稲田大学 『災害復興医療人類学研究所』

災害復興に向けた多面的ヴィジョンの創生③
《発達行動学 & 政治学》

[1. ご挨拶] 13:00~13:10

辻内琢也(所長・早稲田大学准教授)

[2. 講演] 13:10~14:25

根ヶ山光一(研究所員・早稲田大学教授)

「福島原発事故による避難と子別れ:発達行動学の立場から」

…震災直後に立ち上げた「かささぎプロジェクト」。その活動をもとに、原発事故という生存権を揺るがす未曾有の出来事とそれにともなう親子分離や地域ネットワークを通じた生涯発達論構築の見通しなどについて言及する。

[3. 報告] 14:25~15:10

持田隆平(早稲田大学人間科学研究科博士課程

・根ヶ山発達行動学研究室)

「NHK/WIMA宮城・岩手・福島5万5千世帯大規模アンケート調査結果報告<第2報>-子どもと家族に焦点をあてて-」

[4. 講演] 15:25~16:55

北村浩(招聘研究員・

公益財団法人政治経済研究所主任研究員)

「ふくしまからの/フクシマへの「まなざし」-交差することの困難なふたつの視線をめぐって-:政治学の立場から」

…福島からの内発的な視点と、外からの福島にむけられる視線はなかなか交わらない。ここでは、「歴史的な観点」と「法と倫理に関する観点」ふたつのアプローチからこの問題を考察する。

[5. パネルディスカッション] 17:00~18:00

「世間の風化と避難者の現実を“外からの視点”と“内からの視点”から捉える」

2015年12月19日(土)13時 (無料・申し込み不要)
於:早稲田大学 11号館 8階 819教室

会場住所:〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-20-14
JR・西武線「高田馬場駅」徒歩20分、地下鉄東西線「早稲田駅」
徒歩10分、都営バス「西早稲田」徒歩3分、都電荒川線「早稲田」
徒歩5分 国際会議場ななめ前

主催:早稲田大学『災害復興医療人類学研究所』

共催:震災支援ネットワーク埼玉(SSN)、基盤研究(B):震災復興の公共人類学

早稲田大学『応用脳科学研究所』、NPO法人 全国福島県人友の会

問合せ先(研究所事務局:辻内研究室内):〒359-1192埼玉県所沢市三ヶ島2-579-15

TEL/FAX:04-2947-6901 E-mail shinsai-wima@list.waseda.jp

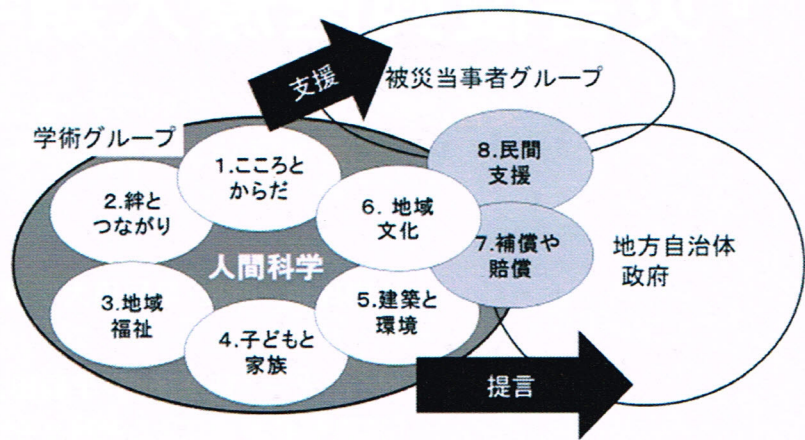
Waseda Institute
of Medical Anthropology
on
Disaster Reconstruction



—ご寄付のお願い—

本研究所は、皆様からの寄付金・助成金にて運営しております。研究活動にご賛同いただけます方には、是非ご支援を心よりお願い申し上げます。早稲田大学への指定寄付は免税措置を受けられます。詳しくは研究所ホームページ<http://www.waseda.jp/prj-wima/>をご覧ください、格段のご配慮をお願い申し上げます。

早稲田大学 [WIMA] 『災害復興医療人類学研究所』



■研究所メンバー■

- 【顧問】** 菊地靖 (早稲田大学名誉教授, 開発人類学)
【所長】 辻内琢也 (人間科学学術院准教授, 医師, 医療人類学)
【研究所員】 (*運営委員)
 根ヶ山光一* (人間科学学術院教授, 発達行動学)
 小島隆矢* (人間科学学術院准教授, 建築環境心理学)
 扇原淳* (人間科学学術院教授, 社会医学)
 熊野宏昭 (人間科学学術院教授, 医師, 行動医学)
 西村正雄 (文学学術院教授, 文化人類学)
 多賀努 (人間科学学術院准教授, 社会福祉学)
 桂川泰典 (人間科学学術院准教授, 臨床心理士, 臨床心理学)
 牧野冬生 (国際学術院助教, 建築人類学, 建築計画)
 石島このみ (人間科学学術院助手, 発達行動学)
【招聘研究員】
 リチャード F.モリカ (ハーバード大学教授, 難民トラウマ研究所所長, 医師)
 安田常宏 (マサチューセッツ総合病院, 医師, 心臓核医学)
 関谷雄一 (東京大学大学院総合文化研究科准教授, 開発人類学)
 仲佐保 (国立国際医療研究センター国際医療協力局・国際派遣センター長)
 増田和高 (鹿児島国際大学福祉社会学部講師, 社会福祉士, 地域福祉学)
 土田マリサ (東京女子医科大学公衆衛生学第二講座社会疫学, 医師)
 北村浩 (公益財団法人政治経済研究所主任研究員, 政治学)
 猪股正 (埼玉総合法律事務所弁護士, 震災支援ネットワーク埼玉代表)
 佐藤純俊 (埼玉県杉戸元気会代表, 社会福祉主事)
 筒井雄二 (福島大学共生システム理工学類教授, 実験心理学)

〒359-1192

埼玉県所沢市三ヶ島 2-579-15

早稲田大学 人間科学学術院 辻内研究室内

電話/FAX: 04(2947)6901(直通)

電子メール: shinsai-wima@waseda.jp

ホームページ: <http://www.waseda.jp/prj-wima/>

■研究の射程■

1. ころとからだの健康課題
2. 人びとの絆・つながりと健康課題
3. 地域復興における福祉課題
4. 子どもと家族をめぐる課題
5. 住宅や周辺環境をめぐる建築課題
6. 地域文化・環境の継承と復興をめぐる課題
7. 補償や賠償に関する法的課題
8. 民間団体による支援方略をめぐる課題

■研究テーマ■

東日本大震災を契機に提示された、さまざまな身体・心理・社会・文化的課題を追求し、環太平洋地域において繰り返される自然災害・人為災害からの回復・復興に資する、広い意味での応用医療人類学に基づく調査研究をおこない、その知見を日本国内外へ発信します。

■研究所設立の経緯■

これまでに『災害と人間科学プロジェクト』として、震災支援ネットワーク埼玉 (SSN) やNHK福島放送局との共同で、埼玉県・東京都・福島県において避難生活を送る東日本大震災・原発事故の被災者を対象にした大規模アンケート調査を実施してきました。調査は、“被災状況、生活経済状況、ころとからだの状況、家族コミュニティの状況、住宅環境の問題、法律賠償問題”など、生活全般の課題を明らかにしたもので、研究成果はNHKスペシャル「福島の今を知っていますか」(2013年3月放映)や数多くの新聞記事、著書『ガジュマル的支援のすすめ』(早稲田出版)、雑誌『世界』の論文、また内閣委員会・国会での答弁、自治体への意見書などの政策提言に活用されました。

研究所員らの多くは、阪神・淡路大震災における支援と調査の経験があり、2011年以降は福島や避難先である関東圏における支援とフィールド調査を継続して行なっています。招聘研究員として、民間支援団体代表を招いて現場に密着した被災者主体の問題解決法を探索し、また開発人類学・建築人類学・文化人類学者や医師らを招き、ハーバード大学難民トラウマ研究所 (HPRT) と協力関係のもと、日本のみならず北米・南米およびアジア太平洋地域を中心に国際的視野で災害復興に資する知見を生み出していきます。